

# ランキュラスの切り前（開花程度）調節による大輪出荷をめざして

■ JA香川県三豊ランキュラス部会 ■

（西讃農業改良普及センター 濱口政也）

## ●対象の概要

JA 香川県三豊花卉部会は県西部の三豊市の詫間・仁尾地区を中心にマーガレット、ヒマワリ、草花などを栽培しており、マーガレットは日本一の産地である。平成18年に当地区に導入されたランキュラスは、徐々に面積が拡大し、三豊花卉部会の中に平成26年、新たに三豊ランキュラス部会として活動を開始、現在は13名で80aの面積が栽培され、年間出荷量は70万本とここ5年間で面積が倍増してきている。

## ●課題を取り上げた理由

ランキュラスは、県農業試験場での培養技術やJAとの連携による優良種苗の供給体制の整備が進み、オリジナル品種「てまりシリーズ」の品種開発により、栽培農家も増えてきている。また、比較的、低温で管理できる品目であることや、最近の人気の高まりで全国的にも面積が拡大している。

県オリジナル「てまりシリーズ」の特徴は赤、白、黄、ピンクや紫系など、花色が多彩で花の大きさは中～小輪系と家庭需要として非常に使いやすいほか、全体的に切り花本数が多く、豊産性の品種が多いことが特徴である。

しかし、出荷量が増加する時期では、他産地の小輪系ランキュラスに比べて、販売に苦戦する場合もある。このため、「てまりシリーズ」での切り前（開花程度）を調整することによる大輪化とその日持ち性について調査し、有利販売に向けた検討をする。

## ●普及活動の経過

### 1 ブライダル需要に向けた大輪化の確認

白系・赤系品種のランキュラスは、ブライダルでの需要拡大が期待できる。そこで、28年には、てまりシリーズの中でも「小春てまり」、「雪てまり」の白系品種と黄色の有望品種「ゆずてまり」で、29年には、赤系品種の「茜てまり」「紅てまり」で切り前調節による大輪化の可能性や日持ち性への影響を調査した。

### 2 市場での大輪化ランキュラスをPR

大輪化の試験とあわせて、関東・関西の市場での展示、商談会等での販売促進の支援を行った。また、大輪化については市場担当者と連携し、ショーケースに展示し、三豊ランキュラスとしてPRした。

### 3 大輪化に向けた情報提供

栽培講習会で、切り前（開花程度）を調整することによって「小春てまり」の大輪化が可能であることを周知した。

## ●普及活動の成果

### 1 大輪化と日持ち性の確認

28年の試験は、切り前を固めと緩めで収穫した花を通常の手順で市場出荷（関東市場）を行い、輸送後の日持ち性等について確認を行った。

調査した3品種「小春てまり」、「雪てまり」「ゆずてまり」では切り前による最終的な日持ち性の差はなかった。その中でも「小春てまり」は満開をやや過ぎた5日目でも花卉の乱れが非常に少なく、更に緩めで収穫することで、ボリュームのある大輪になることが分かった。（写真1、2及び表1）



小春てまり「固め」 「緩め」  
写真1 日持ち試験 0日目



小春てまり「固め」 「緩め」  
写真2 日持ち試験 5日目

表一 切り前(開花程度)が日持ちに及ぼす影響

区		日持ち 日数	最長 日数	最短 日数	満開 (日目)
雪	固	9.6	11	8	3
	緩	10.6	11	10	3
小春	固	12.0	12	12	4
	緩	11.6	12	10	4
ゆず	固	11.2	12	11	7
	緩	10.8	12	10	2

(24℃ 60% 12時間日長) 1月実施

29年の試験では赤系の「茜てまり」、「紅てまり」での日持ち性の確認とあわせて花径・花弁長などの大輪化を調査した。

日持ち性では、切り前が固め、緩めでの差は同等でどちらの品種も差は無かった。花径(花の大きさ)は「茜てまり」の緩めでやや大きくなり、外弁長でも(分解調査)差が見られ、切り前を緩めにするることによる大輪化の効果が確認できた。(表2)

表二 切り前の違いによる花径(花弁長)への影響

区		1日目		23日目	
		花径 (mm)	外弁長 (mm)	花径 (mm)	外弁長 (mm)
茜てまり	固	59.1	32.9	102.8	52.0
	緩	75.7	36.7	109.3	54.5
紅てまり	固	55.3	31.7	86.0	44.3
	緩	58.7	31.9	85.8	43.5

9℃~15℃の室内で管理 (2月実施)



収穫1日目



収穫23日目

写真3 茜てまり 緩め

以上の試験の結果から、切り前を緩めにするることによる日持ち性への影響はほとんど無く、「小春てまり」、「茜てまり」は花卉の乱れも少なく鑑賞期間が長いことが分かった。

また、大輪化については「小春てまり」「茜てまり」の切り前緩め収穫がその後の花が大きく咲くことや外弁長が長くなることが確認できた。

## 2 市場での販売促進活動

県内外での商談会の出展支援や関東市場で

の展示(ショーケース)において、三豊ランキュラス「てまりシリーズ」の展示を行った。その結果、日持ちの良いランキュラスとして評価を受け、関東への出荷が強化され、販路の拡大につながった。また、ブライダルでの需要拡大をめざして市場担当者との連携を図った。



写真4 関東市場でのPR展示

## 3 大輪化に向けて

切り前調整による大輪化の取り組みは、講習会や出荷目慣らし会などで結果を周知し、花卉の乱れが少ない「小春てまり」から取組みを開始した。

### ●今後の普及活動の課題

切り前調整による大輪化の取り組みは「小春てまり」から取り組んでおり、「茜てまり」についても大きく開花することが確認できた。今後、取り組みを推進していく中、販路の拡大に向けて、白系の「小春てまり」、赤系の「茜てまり」のブライダルでの需要拡大を市場と連携を深めつつ、推進していく。

また、栽培面では残暑の影響による開花遅延や花卉の花ジミが問題になっており、それらの課題解決を進める。

さらに、平成32年より花卉の花ジミに強いてまりシリーズの新品種「恋てまり」「春てまり」の種苗供給が始まることから、より経営安定に向けた取り組みを支援していく。



春てまり



恋てまり

写真5 「てまり」シリーズ新品種